

【別紙2】

大阪市立新北島中学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】実施報告書 (補足説明資料)

現状と課題

本校では長年にわたり低学力という課題を抱えている。平成28年度の全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテスト等各種テストにおいては、平均比がおよそ5ポイント程度の差があった。その一つの要因として、生徒アンケートにおける「家で学校の宿題をしている」「家で学校の宿題以外の学習をしている」といった家庭学習の項目での肯定的回答の数値が全国や大阪府に比べて低いことがあげられる。また、以前より生活指導面に問題傾向のある生徒も多く、落ち着いて授業を受けられる環境にもなかったという背景もある。

そこで、これらの課題克服に向けて“学力の向上”と“家庭学習の定着”、“授業規律の徹底”と“わかる授業への改善”を目標とした取り組みを推し進めることとした。

具体的な取り組み

学力向上に向けて、平成29年度より大阪市の「学校力UP支援事業」を受け、学校力UPコラボレーターの支援のもと、英語力と生徒の学習意欲の向上に向けて検定料の学校負担による“英語検定の全校受検”を実施した。また、学校元気アップ事業の支援もあわせて受け、放課後の補習や自主学習、図書館開放の機会を設け、学習に触れる機会を多くつくるようにした。さらに、落ち着いた学習環境の整備と豊かな情操を育てる目標に、生徒会活動の一環として“あいさつ運動”を、重度障がい者雇用事業所との共同作業で“ふれあい緑化活動”を、“(外部講師を活用した)キャリア教育の充実”に向けた講演会を年間で複数回行うように努めた。

一方、教員は学期ごとに“研究授業DAY”を9回設け、うち3回で全教員による相互授業参観とワークショップ方式による授業改善に向けた研究協議を行うことで、授業力の向上とともに、意識改善にも取り組んだ。

取り組みの達成状況(指標)

これらの取り組みの達成状況を図る指標として、

- (1) 英語検定の平均合格率を前年と比較する。
- (2) ICTを活用した授業研究を各教科年1回以上実施する。
- (3) 学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目での肯定的回答の割合を前年と比較する。
- (4) “ふれあい緑化活動”や“(外部講師を活用した)キャリア教育”を年3回以上実施する。

というように定め、取り組みを推し進めてきた。

今年度の達成状況としては次の通りとなっている。

- (1) 前年度の37.4%に対し今年度は31.9%であったが、取り組みも3年目を迎え、すでに取得級が高くなってきており、純粋に合格率だけを比較するのは難しくなってきているという課題も見えてきた。一方で、他の実施日に自費受検する生徒も増えてきており、英語検定に対する関心の高まりが見られる。【達成状況：B】

《資料：令和元年度の英語検定受検結果（第2回のみ）》

	受験者数	1次合格者数	2次合格者数	最終合格率
準1級	2	0	0	0.0%
2級	7	2	2	28.6%
準2級	30	9	6	20.0%
3級	82	39	24	29.3%
4級	148	-	68	45.9%
5級	107	-	38	35.5%
	374	50	138	31.9%

- (2) 今年度はICT支援員の配置も受け、月2回程度授業用パソコンやタブレットパソコンの活用の助言も受けられたということもあり、全教科また学年でICT活用の工夫が見られた。また、特別支援学級用のタブレットと学習ソフトを購入し、基礎学習に活用したり、タブレットドリル活用校の指定を受け、放課後補習に活用したりと積極的なICT活用が行えた。【達成状況：B】
- (3) 3学年平均で、前年度の81.1%に対し今年度は83.1%であった。8割を超える数値で前年度を上回ってきているので、教員の日頃の授業研究の成果が出ているとみてよいのではないかと考える。とりわけ、習熟度別少人数授業を展開している国語、数学、英語においては、学習データ教材やデジタル教科書なども活用し、基礎学力の定着に力を入れている。【達成状況：B】
- (4) 今年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響で1度中止せざるを得なかったが、“ふれあい緑化活動”は2回実施できた。生徒会の緑化委員会の生徒が毎回障がい者と共に花の苗を玄関花壇に植えることで、学校も華やかになり、生徒の心にも良い影響を与えると考えられる。3回目も苗は届いていたが、実施ができなかつたため、休業期間に教員が苗を植えた。また、外部講師の活用は4名4回実施した。1回は教員対象の「LGBT研修」を行い、教員の人権感覚を高めることができた。他に命に関する学習とソンセンニムによる韓国・朝鮮の文化を知る学習を生徒対象に行い、生徒の人権意識を高めることができた。【達成状況：B】

学校協議会における意見・総評

指標からは除いたが、中学生チャレンジテストの成績からも学力向上は着実に見られ、中でも英語が抜き出ている。やはり英語検定を利用した取り組みの成果と思われるが、学習習慣が定着していない生徒や授業について行けない生徒が多いという課題も変わらず残っている。不登校生が多い(7%程度)という背景にも、そういったことがあるのではないか。しっかりと課題の本質を見抜き、多面的に解消に向けて努力してほしい。

新北島中学校は、部活動でも頑張りが見られる生徒が多く見られる。そのような点からも、生徒の興味関心や良いところを見つけ、伸ばしていくような教育活動についても考え、総合的な人間力も高めていってほしいと考える。